

《 概要 》

取組概要

(1) 導入実績 (実施地区及び団体、導入回数)

- ①集落協定 (常六・柿の上・大宮上) 6回
- ②活動組織 (竹島) 4回
- ③農事組合法人 (入田村、黒尊川営農組合) 3回
- ④その他 (実演会含む) 3回 計16回導入

(2) 運用方法 (効率的な利用方法、持続可能な仕組みづくりや担い手確保に向けた工夫などを記載)

(保管先) 四万十市立四万十農園めぐりっこ

(運搬方法) 市または利用者

(予約方法) 随時

(利用料金) 無料 (実証期間中)

(利用に関するルール)

- ・草丈は膝くらいまでの高さとする (無理な使用は控えること)。
- ・雨の日は使用しないこと。
- ・数回利用した集落には再度の貸出時に注意事項をまとめた用紙を渡した。

(その他)

- ・実証事業が可能な集落 (中山間地域等直接支払交付金集落協定、多面的機能支払交付金活動組織、集落営農組織など) がないか事前にアンケート調査を実施した。
- ・予約があれば市職員が集落へ出向き、操作方法等を説明した。
- ・本格的な利用前にラジコン草刈機に興味がある組織代表者等呼び実演会を実施し普及促進を図った (28名参加)。

《 実証結果 》

(1) 成果

(ア) ロボット草刈機の導入による効果

【定量的】

作業時間	導入前	→	導入後	負担軽減率
	47時間		33.5時間	
人役	導入前	→	導入後	負担軽減率
	17人		9人	
作業面積	導入前	→	導入後	生産性向上率
	9,050㎡		9,050㎡	

※従来と同じ場所、同じ作業面積で実施

【定性的】

- ・作業が楽で体力的、人力的な負担が軽減された。
- ・草丈が高い、株が太い草、急で凹凸がある傾斜、障害物が有るところは使いにくい。
- ・草丈の短い場所 (定期的に管理)、果樹園に適している。

(イ) 持続可能な仕組みづくり (共同利用の方法)

- ・利用に際し、市職員が集落へ出向き操作方法を説明することで、利用しやすい環境づくりができた。
- ・実演会の実施により、他集落等も巻き込んだ取組ができた。

(2) 課題

- ・初めて利用の際は、操作方法や使用中及び使用後の注意点など、事前に十分な説明が必要で、慣れるまで時間がかかる。
- ・草刈りを実施する時期は夏から秋にかけて多く、各集落で希望が重複すること、また雨 (台風含む) で使いたい時に使えないことがあった。
- ・電気系統部分が水に濡れると故障の原因になるため雨の日は使えない。
- ・草丈が機械より高い場所では機械が草で見えなくなるため、離れた場所で操作するのであれば機械に目印 (旗など) が必要。

(3) R6以降の運用方針

- ・引き続き、市が管理し貸し出しする。
- ・初めて利用する場合や希望があれば、市職員がサポートする。
- ・燃料は満タンにして返却してもらう。
- ・替え刃や修繕 (保険加入) は市で対応する (予定)。
- ・利用料金を徴収するかは未定 (貸出にかかる規程なども検討中)。



※導入したロボット草刈機の写真



※実演会の写真